

「感染者は今後も減っていく」全数把握見直しから1週間余 新型コロナ 専門家に聞く

2022/9/22 テレビユー山形



<https://news.yahoo.co.jp/articles/c8b05da27e7aae1cdd38749c1184a16650aa3056>

新型コロナの全数把握が見直されてから1週間あまり。山形県内の新規感染者は緩やかに減少しています。

感染のピークは越えたとみられるのか、そして間もなく接種が始まる「オミクロン株対応ワクチン」の特徴を専門家に聞きました。

山形県内では今月14日から、新型コロナの発生届の対象が高齢者などに限定されていて、それ以外の人には「陽性者健康フォローアップセンター」に自ら登録する形となっています。

山形大学医学部附属病院の森兼啓太教授は、現在の感染状況と今後の見通しを次のように分析しています。

**山形大学医学部附属病院**

**森兼啓太 教授**

「全国的に感染者が減っているということは先にあると思う。(感染者は) 今後も減っていくだろうと思う」

一方で、県が発生届の対象を限定したことは、必ずしも医療機関の負担軽減につながっていないと言います。

**森兼啓太 教授**

「今までは医療機関で、自分のところで登録すればよかったが、逆に患者に説明をする、登録に関する説明をするという時間は増えているので、(医療機関が) 楽になっていないという可能性はもちろんあると思う」

また、森兼教授は、県内の感染状況を正確に把握するため自己検査で陽性がわかった人はフォローアップセンターに登録するよう、さらなる周知が必要だと強調しています。

県内では間もなく、オミクロン株対応のワクチン接種が始まります。

その効果は?

## 森兼啓太 教授

「2022年1月あるいは2月ぐらいに流行していたウイルスの設計図に基づいたワクチンのほうが、当然いまの流行から身を守るためには効果が高い。よく効くといえると思う」  
一方、発熱などの副反応について、森兼教授は「恐らくこれまでと何も変わらない」としています。

あすからは3連休。

一人ひとりの感染対策が、身近な人の健康を守り医療機関の負担軽減につながります。